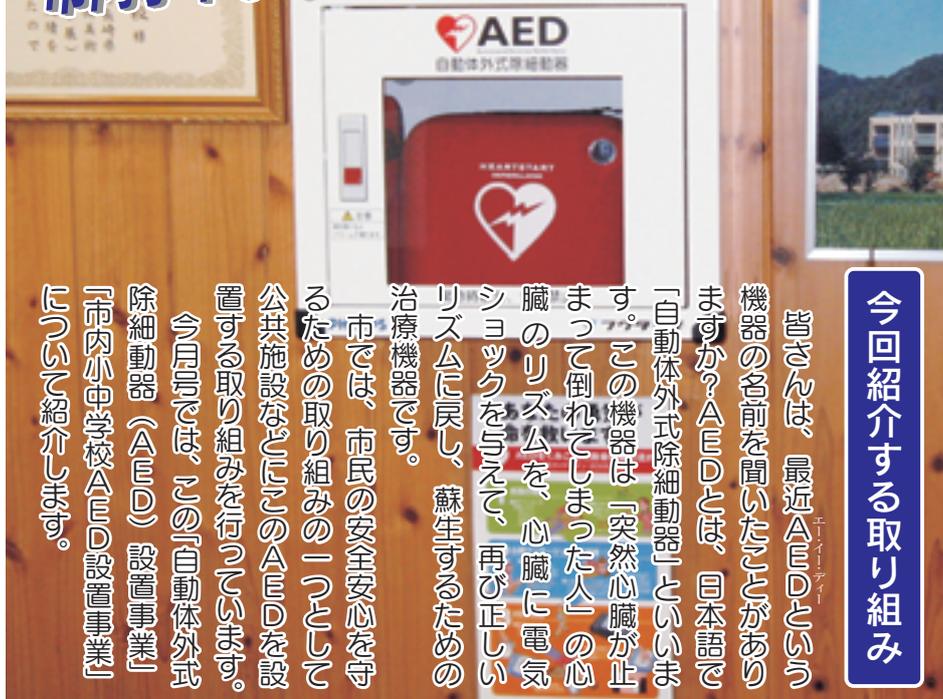


市民の皆さんの安全・安心のくらしのために 市内小中学校・公共施設に「AED」設置



市政 ピックアップ

市では、「定住促進」や「交流人口拡大」などで市がさらに元気になるさまざまな取り組みを行っています。このコーナーでは、市が計画または実施しているその取り組みの中からピックアップして紹介します。

取り上げた事業の中で不明な点や、取り上げてほしい事業などがありましたら総務課秘書広報係が担当課までお尋ねください。

今回紹介する取り組み

皆さんは、最近AEDという機器の名前を聞いたことがありませんか？AEDとは、日本語で「自動体外式除細動器」といいます。この機器は「突然心臓が止まって倒れてしまった人」の心臓のリズムを、心臓に電気ショックを与えて、再び正しいリズムに戻し、蘇生するための治療機器です。

市では、市民の安全安心を守るための取り組みの一つとして公共施設などこのAEDを設置する取り組みを行っています。今回は、この「自動体外式除細動器（AED）設置事業」「市内小中学校AED設置事業」について紹介します。

【図1】



AEDの設置

心停止により突然倒れた場合、医師や救急救命士の到着を待つから治療を始めたのでは、倒れた人の多くを救命できません。そこで市では、できるだけ早く治療を行うために各施設にAEDを設置しています。特に、クラブ活動や部活動などで

日常的に激しい運動をする機会が多く、地域の人にとって最も身近な公共施設である学校施設をはじめとして、市民が多く集まる施設にAEDを設置しました【図1参照】。

最近では、公共施設だけでなく一般の企業店舗にも設置が進められ、操作訓練なども行われています。

AEDの活用

せっかくAEDを設置しても、いざというときに操作できなくては意味がありません。

そこで、設置に先立ち、市では消防署の職員を講師として、市職員を対象にAED操作をはじめとした救命講習を実施しました。

市内小中学校では、防災訓練の一環として、心肺蘇生法についての講習を受け、人工呼吸や心臓マッサージの実習に取り組むなど、緊急時の対応方法を学習しています。

また、消防団の訓練の際にも、AEDの取り扱いの研修を行っています。

今後の取り組み

小中学校では、これまで実施してきた緊急時の対応方法の講習内容に加え、AEDの役割・操作方法などの周知を図り、AEDを活用した速やかな救命措置を施せるような体制づくりに取り組めます。

公共施設では、未設置の施設には順次設置していきます。また、それと合わせて取り扱いの研修も行っていきます。

突然心室細動になった人の、心室細動になってから除細動までの時間と救命の可能性（成功率）は、発生後約1分で除細動が成功すると約90%の人は助かりますが、2分では、約80%に、さらに9分では、10%以下となります。日本では、119番救急要請から救急隊員が到着するまでの平均時間は、約7.7分といわれています。さらに機器装着などの時間を考えると、9分を経過することになり、この時の救命の可能性は、10%程度にまで低下してしまいます。

倒れた人を見かけてあなたがその場でAEDを用いて除細動しない限り、その人を助けることはかなり難しいとされます。そのため正しいAEDの使い方を知っておく必要があります。

松浦地区消防組合では、AEDの使用方法を含めた心配蘇生法の講習を行っています。皆さんも、色々な会合の折に、ぜひAEDの講習会を取り入れていただきたいと思えます。

問合せ先

〔公共施設〕 総務課

〔小中学校〕 教育委員会庶務課

心肺蘇生法・AED操作の手順

〔心肺蘇生法〕

①反応を確認する。

周囲の安全を確認し、傷病者に近づき、肩を叩きながら反応を確認する。

②助けを呼ぶ。

反応がなければ「誰か来てください！」と大声で助けを呼ぶ。誰か来れば「あなた119番通報してください」と依頼し、近くにAEDがあれば「あなたAEDを持って来てください」と具体的に指示する。

③気道を確保する。

あごを持ち上げてのどの奥を広げ、呼吸しやすくする。

④呼吸を確認する。

自分の顔を傷病者の胸部側に向け、口元に近づける。胸などの動きを「見て」、呼吸などの音を「聞いて」、吐息を頬で「感じて」確認する（5〜10秒間）。

⑤人工呼吸

呼吸がなければ人工呼吸を開始。胸が上がるように確認しながら吹き込む。上がらなかつた場合は再度行い、すぐに心臓マッサージを始める。

⑥心臓マッサージ（胸骨圧迫）

胸の真ん中（乳頭と乳頭を結ぶ線の中央）に手のひらの手首に近い部分をあて、そこにもう一方の手を重ねる。垂直に体重が加わるように肘を伸ばし、胸が5センチ沈み込む程度に強く圧迫し、解除時は胸が元の高さに戻るように解除する。1分間に100回のテンポで30回連続して圧迫する。

⑦心肺蘇生の実施

30回圧迫後は、人工呼吸を2回と胸骨圧迫30回を絶え間なく行う。

〔AED操作の手順〕

⑧AEDを対象者の横に置く。

AEDが届いたら傷病者の頭の近くに置き、操作の準備をする。

⑨AEDの電源を入れる。

AEDの電源ボタンを押す（開くと自動で電源が入る機種もある）。以降は音声メッセージと点滅ランプに従って操作する。

⑩電極パッドを貼る。

衣服を取り除き、電極パッドのシールをはがし、心臓を挟むように右鎖骨下と左脇腹に貼る。※汗などはふき取り、毛深いときは予備のパッドで剥き取る。ペースメーカーを使用しているときはその部分から3センチ以上離す。

⑪心電図の解析

電極パッドを貼り付けると「離れてください」とメッセージが流れ、自動的に心電図を解析する。

⑫電気ショックと心肺蘇生の開始

電気ショックが必要なときは「ショックが必要です」とメッセージが流れ、充電が始まる。充電が終わるとメッセージが流れ、指示されたボタンを押すと電気ショックが実施される。

⑬電極パッドを貼ったまま、すぐに心肺蘇生開始。2分経過するとAEDが自動的に心電図の解析を始める。後は、傷病者が回復するか救急隊に引き継ぐまで心肺蘇生とAEDの手順を繰り返す。

※希望があれば松浦地区消防組合から心肺蘇生法・AEDの操作の講習を行います。詳しくは松浦地区消防組合まで尋ねてください。